

令和5年度 第3回苫小牧市子ども・子育て審議会 会議録

開催日時 令和6年2月20日(火) 午後6時から午後6時50分まで

開催場所 苫小牧市役所 職員会館304号室

出席者

- ・審議会委員 11名
遠藤委員、岡田委員、小原委員、草場委員、工藤委員、佐々木委員、下山委員、辻川委員、戸出委員、北條委員、渡邊委員
- ・関係職員 16名
健康こども部長、健康こども部次長、教育部参事、こども育成課長、こども支援課長、こども相談課長、青少年課長、健康支援課長、健康支援課主幹、こども育成課長補佐、青少年課長補佐、健康支援課長補佐、健康支援課副主幹、こども育成課総務係長、こども育成課総務係専任主事、こども育成課総務係主事
- ・傍聴人 1名
苫小牧民報社(1名)

1 開会

(司会)

それではお時間となりましたので、ただいまから「令和5年度 第3回 苫小牧市子ども・子育て審議会」を開催いたします。委員の皆さまにおかれましては、お忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

本日、司会を務めさせていただき、こども育成課の桑村と申します。よろしくお願いたします。まず、桜田健康こども部長よりご挨拶申し上げます。

2 部長挨拶

皆さん、こんばんは。健康こども部長の桜田でございます。本日はお忙しいところ「苫小牧市子ども・子育て審議会」にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。また、日頃から子育て支援をはじめ、市政の発展のためにご理解とご協力をいただき、重ねてお礼を申し上げます。

さて、本日は、令和5年度における苫小牧市子ども・子育て支援事業計画に定めた教育・保育施設の確保方策に対する確保の見通しについてご説明させていただいた後に、前回の審議会でご審議いただきました第3期苫小牧市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査につきまして、速報値ですが分析結果が出ましたので、ご報告をさせていただきます。本日、ご報告させていただきますニーズ調査結果は、来年度に策定いたします第3期苫小牧市子ども・子育て支援事業計画の量の見込み及び確保方策を決定するための根幹の部分となりますので、お気付きの点などありましたら忌憚のないご意見をいただき、よりよい取組につなげていきたいと考えておりますので、よろしくお願い致します。

3 会議の成立

(司会)

ありがとうございます。ここで、会議の成立についてご報告いたします。佐藤郁子委員、佐藤守委員、末松委員、保坂委員は本日欠席となります。

苫小牧市子ども子育て審議会条例第6条第2項において、会議は委員の過半数以上が出席しなければ、開催できないことが規定されておりますが、本日は、委員15人中11人と、過半数以上の委員が出席されておりますので、会議が成立していることをご報告いたします。

それでは議事に入りますが、ここからは小原会長に進行をお願いいたしますので、議長席へ移動して、議長をお願いいたします。

4 議事

(議長)

それでは、ここからは、私が進めさせていただきます。本日は、議事の説明と質疑を行い、午後7時を目途に終了を予定しております。また、この審議会の議事録を苫小牧市のホームページで公開いたしますので、よろしくお願いします。

では、次第3の議事に入ります。(1) 子ども・子育て支援事業計画に基づく確保方策の見通しについて、事務局から説明をお願いします。

(こども育成課総務係長)

こども育成課の高橋です。本日は、はじめに第2期苫小牧市子ども・子育て支援事業計画に基づく確保方策の見通しについてご説明させていただきます。

資料1をご覧ください。「1 教育・保育施設における確保方策の見通しについて」の表の見方についてご説明いたします。令和5年度の欄をご覧ください。表にある「量の見込み」は、計画策定時に見込んだ保育所・幼稚園等への入所希望数となります。その隣の「計画の目標値」は、量の見込みに対して、子ども・子育て支援事業計画で、どの程度の受入枠を用意するかを示した計画値となります。令和5年度の量の見込みと計画の目標値を比較しますと、2・3号の0歳児が量の見込みを下回る目標値となっております。次に左から3番目の「受入実績」は、実際に受入を行った実績数となります。その右隣の「受入実績－目標値」がプラスになれば、目標以上に園児を受け入れたことになり、マイナスになると目標を下回って園児を受け入れたこととなります。令和5年度では、1号及び2・3号の1・2歳児、0歳児がマイナスになっており、計画の目標値に達していません。ただし、このうち1号につきましては、量の見込みよりも実際の入所希望者数が少なかったことが要因のため、定員については十分な量を確保できております。2・3号の1・2歳児につきましては、ほぼ目標値どおりで、量の見込みを上回る受入実績となっておりますが、次に説明する「2 3号認定子どもの推移について」の表でお示ししているとおり、入所希望者数が量の見込みを103人上回る945人となることから、令和5年度では引き続き入所待ちは解消されていません。表の一番右側の「超過受入人数」は、施設の皆様に定員を超えて受けて頂いている数になります。令和5年度は各施設の方々のご尽力によりまして3～5歳児は156人、0歳児は3人、定員を超過して受入をしていただいております。

続きまして、令和6年度をご覧ください。まず1号につきましては、令和5年度と同様に「受入実績－目標値」がマイナスとなっておりますが、こちらも量の見込みを上回る定員を確保できております。2・3号につきましては、引き続き0歳児のみ目標を達成できない見込みとなっております。0歳児の定員を確保できていない要因としまして、1・2歳児は保育士1人につき子ども6人まで面倒を見ることができそうですが、0歳児は保育士1人につき子ども3人までしか面倒をみるのができないことから、施設を増やしても0歳児の定員を大きく増やすことが難しいことや、各施設での保育士不足から、定員を超過して受けることにも限りがあることが挙げられます。なお、1・2歳児につきましては、令和6年度をもって入所待ちが解消される見込みとなっております。

続きまして、「2 3号認定子どもの推移について」ですが、ここでは、年度末に向けて継続的に入所待ちが発生している0歳児と1・2歳児の状況についてご説明いたします。向かって一番左から見ていただきますと、0歳児では人口は減少傾向となっている一方で、保育施設の利用を希望する保護者の割合が高まっていることにより、入所希望者数は横ばいとなっております。次に「受入実績」ですが、継続して施設整備を進めてきたことや、各園の皆様のご尽力で定員を超えた受け入れをしていただいていることにより増加してはいるものの、入所待ち児童はまだ多くいる状況です。

次に1・2歳児についてご覧ください。こちらも人口は年々減少しておりますが、入所希望者数は、令和4年度と横ばいとなっております。続きまして、「受入実績」についてですが、施設整備

により定員が増加した成果が表れ、入所待ち児童数は減少しております。

次に、「3 第2期子ども・子育て支援事業計画の目標を達成するための方策について」ですが、引き続きハード面における対策では小規模保育施設の整備や幼稚園の認定こども園化を行い、ソフト面における対策では保育士の確保が前提となりますが、各施設の皆様へ定員を超えた受入を引き続きお願いしてまいります。入所待ちの児童の解消につきましては、0歳児は令和7年度以降に、1・2歳児は令和5年度を計画しておりましたが、令和6年度を目標に解消できるよう、教育・保育施設の確保に取り組んでまいります。資料2の説明は以上となります。

(議長)

(1) 子ども・子育て支援事業計画に基づく確保方策の見通しについて、説明がありました。何かご意見、ご質問はございますか。

では、質問が無いようですので、次に進みます。(2) 第3期苫小牧市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査結果(速報値)について、事務局から説明をお願いします。

(こども育成課総務係長)

続きまして、第3期苫小牧市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査結果の速報値について説明させていただきます。資料2をご覧ください。

まず、「1 第3期苫小牧市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査票の回収数等について」ですが、表にありますとおり、0～5歳の未就学児を持つ保護者には11月27日から郵送で1,700票配布し、737票回答をいただき、回収率は43.4%でした。一方で小学校1年生から6年生を持つ保護者には、11月27日から小学校を通じまして、学級ごとに846票配布し、561票回答していただき、回収率は66.3%でした。前回より回収率は下がったものの、ニーズ調査の結果として信頼できる数字として取り扱えるものになっております。

次に「2 就学前児童におけるニーズ調査結果の速報値について」報告させていただきます。今回報告する数字は、速報値になっておりまして、調査票の結果を単純に集計したものになります。今後は、クロス集計といいまして、例えば0歳児の保護者で共働きの方は何人いて、何人が保育施設等の利用を希望しているかなど年齢別に複数の要因を合わせて分析を行い、市民の皆さまのニーズ量を算出し、次期計画の量の見込みとして反映させていく流れになります。また、資料2のニーズ調査結果の速報値は、一部を抜粋して掲載しておりますが、本日はその中でも計画策定にあたって特に重要な項目に絞って説明いたします。ニーズ調査のすべての結果につきましては、参考資料3、4として配付しております。また、ニーズ調査票は参考資料1、2として配付しておりますので、こちらも合わせて、ご参照いただければと思います。

では、問1住んでいる地区についてですが、今回のニーズ調査は西地区、中央地区、東地区の3地区に分けており、各地区の人口の割合に合わせて調査票の送付数を決定しておりますが、回収率にそれほど大きな差はみられませんでした。

次に、問2子どもの年齢についてですが、年齢の人口の割合に合わせて送付数を決定しておりますが、0歳児の保護者からの回収率がやや低く、年齢が上がるごとに回収率が高くなる結果となりました。

次に2ページをご覧ください。ここからは、平成30年度の調査結果と比較する形でお示ししておりますが、回答数が違うことなどから、基本的には割合の増加、減少の傾向で判断を行っていきます。問7日常的に子どもをみてもらえる親族・知人についての設問では、いずれもないと回答した保護者の割合が前回よりも6.1%増えており、日頃、子どもをみてもらえる親族・知人等がいる家庭の割合が減少している傾向にあります。

次に3ページの問11母親の現在の就労状況についてですが、フルタイムで就労している母親の割合が増加傾向にあり、ここ最近の保育の需要増加の要因になっていると考えられます。次に4ページの問11-2は母親を対象にパート・アルバイト等からフルタイムへの転換希望を確認する設

問ですが、フルタイムに転換希望がある母親が増加していることから、保育所の利用を希望する保護者の割合が増加していくと考えられます。

続きまして5ページの間12-1定期的に利用している施設の種類ですが、認定こども園・小規模保育施設の利用者の割合が増加している一方で、幼稚園に関する利用者の割合は減少しております。これは平成30年からの5年間で幼稚園が認定こども園へ8園移行、小規模保育施設が7園増えたことが要因であると推測されます。

6ページから7ページにかけての間13から間13-2は定期的に利用したい施設についての設問ですが、定期的に幼稚園を利用したい保護者の割合が減少している一方で、認定こども園を利用したい保護者が増加しており、認定こども園の利用を優先する保護者が多い傾向にあります。また、小規模保育施設、ファミリー・サポート・センター事業による預かりサービスを利用したい保護者も増加しております。

まとめますと、長時間働きたい母親が増えていることから、幼稚園より保育施設を希望する方が増えております。

次に8ページの間14からは子育て支援事業の調査項目になります。間14・15は地域子育て支援拠点事業などの利用に関する設問ですが、利用者は減少し、利用希望者は増加しております。この要因といたしまして、平日に保育施設を利用する子どもの割合が増えたことに伴って、利用する機会が減少していることが考えられます。

10ページの間17は、土曜日・日曜日・祝日の定期的な施設の利用希望についてですが、土曜日・日曜日・祝日ともに利用を希望する保護者が増加しております。働く母親が増えていること、また、時間の都合を付けやすいパート・アルバイトで働く母親が減少していることから、休日保育等のニーズが増えていると考えられます。

次の11ページにある間19から19-2は、病児・病後児保育のニーズを調査する設問となります。子どもの病気やケガにより、保育施設を利用できず、保護者が仕事を休んで保育する傾向が強まっており、病児・病後児保育施設等を利用したいと考える保護者の割合も増加しております。

次に13ページの間22・23は、それぞれ低学年・高学年において、放課後に子どもを過ごさせたい場所をお聞きする設問です。いずれも放課後児童クラブで過ごさせたい保護者が増加しておりますが、長時間働く母親が増えていることが要因と推測されます。

14ページの間24は、保護者の育児休業取得についてですが、育児休業を取得する割合は、父母ともに増加しております。

次に15ページの間25は、市に望む子育て支援についてですが、ここでは、平成30年度と同様に、親子または子どもが遊べる公園等の施設を増やしてほしい、保育所や幼稚園にかかる費用負担を軽減してほしいという要望が多い結果となりましたが、保育料の負担軽減に関しましては、保育料無償化の影響により平成30年度より大幅に割合が減少しております。

16ページの間26は地域の子育て環境や支援への満足度についてですが、前回の調査の平均が2.9であったのに対し、今回の平均が2.8とわずかに減少しており、今後はさらに満足度を上昇させなければならない状況にあります。

続きまして、「3 就学後児童におけるニーズ調査結果（速報値）について」ご説明いたします。問1住んでいる地区についてですが、未就学児と同様に各地区の人口割合に合わせて配付しておりますが、中央地区の回収率が高い結果となりました。

問2の子どもの学年ですが、1年生の保護者の回答率がやや高く、学年が上がるにつれて回答率が低くなる結果となりました。

次に18ページ、問10と問10-1は母親の就労に関する設問ですが、未就学児と同様にフルタイムで働く母親や、フルタイムへの転換予定がある母親が増加しております。

次に20ページ、問14から14-2は小学生の病児・病後児保育のニーズを調査する設問です。子どもの病気やケガにより、保育施設を利用できず、保護者が仕事を休んで保育する傾向が強まっていますが、病児・病後児保育の利用を希望する保護者の割合は減っております。

22ページの問15と問16は、子どもの放課後の過ごし方に関する設問ですが、自宅で過ごしている、又は過ごさせたいと考える保護者が増えております。また、放課後児童クラブで過ごさせたい保護者は減少しておりますが、平成30年度では調査対象を4年生までとしていたところを、今回は6年生まで拡大させたことが要因と考えられますので、需要量の増減の実態については今後クロス集計により確認していきます。

次に23ページの問18市に望む子育て支援についてですが、親子または子どもが遊べる公園等の施設を増やしてほしい、安心して医療機関にかかれる制度を拡充してほしいという要望が引き続き多い傾向にあります。

最後に、24ページの問21地域における子育て環境や支援への満足度ですが、前回調査時の平均が2.9、今回の調査の平均が2.8と、未就学児と同様に前回の調査よりも満足度はわずかに減少しており、今後はさらに満足度を上昇させなければならない状況にあります。

今後は、最近の各事業の実績とさらに詳細な分析結果から導き出されるニーズ量を吟味しながら、各事業の量の見込みを算出して参ります。資料2の説明は以上になります。

(議長)

(2) 第3期苫小牧市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査結果(速報値)について説明がありました。何か、ご意見、ご質問はございますか。

(辻川委員)

これは保護者の方への調査ですが、子どもに対する調査は実施しないのでしょうか。

(こども育成課長)

こども育成課の斎藤です。第3期子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査でしたので、子どもに対する調査は実施していないのですが、国の動きとしては今後子どもの意見を聞いていかなければならないとされているところでもあります。どのような形でやっていくかは今後検討していかなければならないと考えております。

(辻川委員)

ありがとうございます。こども家庭庁では、昨年の夏にウェブ上で子どもが自分でアクセスし答えられる「子ども・若者アンケート」というのを実施しております。約5分で回答できるような子ども向けの内容で、子どもの居場所についてのアンケートとなっていました。同様のやり方で家庭内暴力や学校内のマルトリートメントなど色々なことのアンケートができると思います。

この子ども・子育て支援事業計画についても子どもの意見が第一にあり、保護者が子どもの困りごとを受け止めて保護者が意見するというように、必ず子どもが最前線にいると思いますので、苫小牧市でも子どもの意見をすくい上げる動きをとってもらいたいと思っております。お願いします。

(議長)

大事なご意見だったと思いますが、事務局から今のことについて何かありますでしょうか。

(健康こども部長)

はい。今回の子ども・子育て支援事業計画は主に教育・保育施設の確保方策ということで、待機児童対策というところが主な位置付けとなっていると考えております。この計画には地域の子育て支援事業も含まれているのですが、辻川委員からご意見いただきました子どもの意見を聞くというところに関しましては、こども基本法によって市町村に努力義務として課せられている「子ども計画」がございまして、計画の策定に当たって子どもの意見を聞く場をつくることが求められています。

こども家庭庁もできまして、色々な考え方に基づいて取組を行っていくことと思いますが、今回の計画については、視点が教育・保育施設の確保になっておりますので、ご理解いただければと思います。

(遠藤委員)

16ページの子どもの学年の設問で、学年が上がるにつれて回答率が低くなっているとのことでしたが、私どもの保育園でも保育士の子ども達が学童を利用しているのですが、保育士達からは3年生くらいになると学童に行きたがらなくなるという話を聞いております。学童が市の教育委員会から民間へ移管されましたが、6年生まで学童を利用している児童の割合はどのくらいなのでしょう。

学童の中にはサッカーやドッジボールなどの運動をさせてくれたり、夏場には水遊びをさせてくれたりする施設もあるようですが、地域によって学童の保育内容が変わっていると聞きますので、気になる部分であります。保育園や認定こども園、幼稚園を卒園して、学校に行ってから働く親の子どもを預かる施設が学童ですが、学童の中でどのように充実された保育をしているのか私達は知り得ないので、3年生以降の利用がなぜ減っているのかを市で分析されているのかということをお聞きしたいです。

また、実際に学童の中でお仕事をされている指導員の方などいて、資格なども取られていると思いますが、どのような方が携わっているのかもお聞きしたいです。

(青少年課長)

ご質問ありがとうございます。学童保育の所管をしております青少年課長の池田でございます。今ご質問のあった6年生の実態について、今は正確な数字を持ち合わせていないのですが、各児童クラブあたり1人か2人で、いない児童クラブもある状況がほとんどでございます。学年が上がるごとに帰宅後の友達との遊びですとか、習い事が多くなっていき、必然的に児童クラブを利用しなくなるというのが実態かなというように捉えております。

児童クラブの内容といたしましては、天気のよい日は極力外遊びを実施しておりまして、1時間でも外遊びを取り入れていくことを中心に考えています。あとは学校の協力を得ながらプレイルームですとか、夏休みなどは体育館を利用し、なるべく体を動かすことを考えておりますが、各学校の状況に合わせていますので、先ほどおっしゃっていたように各地域によって違う部分が出てくることに繋がってしまうかなというようには捉えております。

それと、実際に児童クラブにどのような職員がいるのかということでしたが、昨年4月から民間委託が始まりましたが、ほぼほぼ直営時代の指導員、補助員が移籍しております。この方々につきましては、教員免許をお持ちですとか、保育士資格を持っている方々でして、北海道の資格の研修を受けまして、放課後支援員として認定を受けていただいております。同じく補助員につきましても、研修を受ける前で補助業務を行っている方もいらっしゃいますし、資格を取得された後も長い時間働けない人などは補助員のまま業務にあたっております。1クラブに基本的には3人の支援員を配置し、ローテーションで概ね補助員を含めて2人以上が必ず配置されているような状況であります。

(遠藤委員)

民間委託されたとのことですが、これは全部の児童クラブを1社で運営しているのでしょうか。

(青少年課長)

そのとおりです。学校敷地内にある児童クラブと、児童センターにある児童クラブがありますけれども、児童センターにある児童クラブは指定管理が導入された令和2年から全て指定管理者に委

託しております。学校の敷地内にある児童クラブについては、昨年の4月から全てを1社が請け負っておりますが、学校ごとに差が生じないように1社に一括で委託したところであります。

(健康こども部長)

少し付け加えさせていただきますと、放課後児童クラブの利用者は4月から夏休みが最も多く、1,500人から1,600人くらいいるのですが、時期が経過するとともに徐々に利用がなくなって、年度末には1,300人くらいになります。市内に小学校が23校ある中で、20校に児童クラブがあります。学校内の空き教室を使わせていただいているところもありますし、東側のウトナイ小、拓勇小、拓進小、沼ノ端小に関しては敷地内に児童クラブ専用の別棟がありまして、そこで子ども達が過ごしている状況です。これにプラスして、先ほど青少年課長が申しましたように児童センターに6クラブありますので、全部で36クラブあります。そして、民間のクラブが2クラブあります。

遠藤委員がおっしゃっていたように、以前は教育委員会の方で行っていましたが、平成26年度から健康こども部ができて、教育委員会から健康こども部に移管されて、令和5年度からは全ての児童クラブが民間委託されましたが、民間委託ですので、市も責任を持って関与しながら、色々相談させていただきながら行っているという状況にあります。

(議長)

民間委託が始まって間もないですが、問題が生じているなどといったことはあるのでしょうか。

(青少年課長)

まず一番課題だと感じていたのは、人員の確保でございました。ただ幸いに直営時代の多くの経験豊富な職員が転籍という形で残っていただいたので、一安心したところでございます。その後、着実に民間のノウハウを活用して採用を続けまして、現在では民間委託当初よりも職員数は多くなっております。そういった意味では民間委託の効果が表れているのかなと考えております。

あとは、民間が元々持っていた児童クラブ運営のノウハウを活用した他市との交流などもインターネットを使ってやっておりますし、夏休みや冬休みの長い期間も有効に活用できるような取組もされていると感じております。

(草場委員)

今の件に関してですが、児童クラブの子ども達の満足度などを調査するアンケートは日頃行っているのでしょうか。

(青少年課長)

民間委託したことに伴って、今年度から満足度調査をすることになっております。まだ結果は来ておりませんが、今年度中に集計し結果が出る予定になっております。

(草場委員)

ありがとうございます。もう1点質問なのですが、今回のニーズ調査では、市の子育て支援などへの満足度が前回より0.1ポイント下がっているとのことでしたが、私個人としては色々な施設が増え、子どもを預けやすくなり、子育てしやすい街になっていっているのではないかと感じておりました。しかしながら0.1ポイント下がっている要因をどのように捉えているのでしょうか。

(こども育成課長)

こども育成課の斎藤です。アンケート調査ですので、こういった意図があって満足度が低いのか簡単に分析をしにくい部分があるのですが、全体的に求められているものが高くなっているのでは

ないかと思っております。インターネットの広まりなどでよいニュースが皆さんの耳に入ってくる中で、各市が全てを網羅するのは、財政状況などもありますのでなかなか難しいところがありますが、他市と比較して満足度が低く感じているのではないかと推察しております。

(議長)

まだ中間の速報値ですので、今後色々な要素を加えて分析してはつきりしていくのかなと思い眺めておりました。

よろしいでしょうか。その他ご意見・ご質問ございますか。なければ議題(3)今後のスケジュールについて、事務局から説明をお願いします。

(こども育成課総務係長)

それでは、令和6年度のスケジュールについてご説明いたします。

お手元の資料3をご覧ください。令和6年度の審議会は、現時点で4回の開催を予定しております。主な議題は、第3期の苫小牧市子ども・子育て支援事業計画の策定となります。

まず、第1回目の審議会を6月に開催し、第3期計画策定に向けた量の見込みの設定を議題とする予定としています。量の見込みは、本日ご報告したニーズ調査の結果を踏まえて、この後検討してまいります。

第2回は9月下旬の予定で、第3期事業計画の量の見込みに対する確保方策と計画の素案をお示しし、11月下旬予定の第3回審議会では、第2期計画案をお示しします。そして、12月に市民の皆様へパブリックコメントを行い、そこでいただいた意見を計画に反映させていき、令和7年2月下旬の4回目の審議会第3期計画の完成報告を予定しております。

なお、資料でお示ししているスケジュールは現段階での予定でありますので、国の動向や作業の進捗状況によって、会議の開催日程が前後することや、開催回数変動することがありますことを、ご理解いただきたいと思います。

今後のスケジュールについては、以上でございます。

(議長)

(3)今後のスケジュールについて事務局から説明がありました。何かご意見、ご質問はございますか。

ないようでしたら、全体を通してのご質問やご意見はございますか。

(辻川委員)

関係ない質問になってしまうのですが、里親については市では関与していないのでしょうか。

(こども相談課長)

ご質問ありがとうございます。こども相談課長の斎藤でございます。お答えさせていただきます。里親の登録は北海道にさせていただく必要がありまして、定期的に更新の研修を受けていただく必要があります。養護の必要なお子さんを預かるということもありますので、厳密な手続きが必要になってはいますが、こちらの事務については北海道が所管しております。

ただ、市でもショートステイという事業がありまして、原則1週間ですが親御さんの入院や病気などで急に預けなければいけなくなった時に利用できます。この預け先も、北海道に登録している里親の中から探して確保させてもらっていますので、北海道だけが確保のために仕事をするのではなく、広報とまこまいなどの市の媒体や新聞の特集記事などに掲載したり、市役所のトイレに広告を掲載するウォッチレットなど、様々なものを使って里親の周知に取り組んでおります。

(辻川委員)

ありがとうございます。どうしてこのような質問をしたかと言いますと、わずかな人数ではありますが、私の周りで家庭内暴力など家庭での悩みを抱えている10代のお子さんがあるからです。その子ども達は新しい家庭が欲しいとか、温かい家庭で育ちたかったといったことを話します。

私が里親登録の研修を受けたときに聞いたのですが、10代のお子さんを里親に任せることはまずないそうで、理由としては10代に差し掛かったおさんは難しいから預かりたくないと言う里親が多いからだそうです。ただ、決してそのような里親ばかりではないと思いますので、まずは母数を増やさない限り10代の子ども達の温かい家庭で育ちたかったという潜在的ニーズを、大人の手によってかき消し続けることになると感じています。

里親は北海道の仕事なのかもしれませんが、里親になりたいご家庭を増やすことが10代の子ども達の希望を叶える光になると思いますので、苫小牧市の方でも里親の母数を増やすことに力を入れてもらいたいと思っております。

(議長)

少し観点の違うご意見だったと思いますが、市の方でも少し取り上げて、検討していただければと思います。その他ご意見ありますでしょうか。

質問がないようですので、本日の会議は終了いたします。ありがとうございました。

5 閉会

(司会)

小原会長、ありがとうございました。これをもちまして「令和5年度 第3回 苫小牧市子ども・子育て審議会」を閉会いたします。本日は、長時間に渡る説明・審議にご協力いただきありがとうございました。お帰りの際、お忘れ物などないよう、お気を付けください。